

# 平成26年度事業報告

公益財団法人 服部植物研究所

## I. 事業内容

### 1. 公益目的事業

#### 1.1 研究事業

##### 1.1.1 蘚苔・地衣植物の研究

###### 1). 蘚類の分類・分布について

本年度は日本産 *Diphyscium* (イクビゴケ属) と *Fissidens* (ホウオウゴケ属), *Aongstroemia* (ハタキゴケ属), *Glyphomitrium* (サヤゴケ属), *Trematodon* (ナガダイゴケ属), *Pleuridium* (キンチャクゴケ属), *Trichosteleum* (ホソエゴケ属), *Funaria* (ヒョウタンゴケ属), *Mnium* (チョウチンゴケ属), *Campylopus* (ツリバリゴケ属), *Schlotheimia* (モミゴケ属), *Symphiodon* (ウニゴケ属) の研究を行った。

・*Diphyscium* (イクビゴケ属) は、日本から9種が報告されている。2新種について形態分類と分子系統解析を行い、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Fissidens* (ホウオウゴケ属) は、日本から80種、5変種が報告されている。2新種と新たに本属の7種を日本の蘚類フロラに追加し、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Aongstroemia* (ハタキゴケ属) は、日本から2種が報告されている。新たに、本属の1種を日本の蘚類フロラに追加し、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Glyphomitrium* (サヤゴケ属) は、日本から3種が報告されている。新たに、本属の2種を日本の蘚類フロラに追加し、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Trematodon* (ナガダイゴケ属) は、日本から4種が報告されている。異名になっていた1種を再評価し、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Pleuridium* (キンチャクゴケ属) は、日本から2種が報告されている。新たに、本属の1種を日本の蘚類フロラに追加し、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Trichosteleum* (ホソエゴケ属) は、日本から2種が報告されている。新たに、本属の2種を日本の蘚類フロラに追加し、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Funaria* (ヒョウタンゴケ属) は、日本から2種が報告されている。*Funaria japonica* ヤマトヒョウタンゴケを *Funaria serrata* の異名に落とし、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Mnium* (チョウチンゴケ属) は、日本から8種が報告されている。新たに、本属の1種を日本の蘚類フロラに追加し、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Campylopus* (ツリバリゴケ属) は、日本から9種が報告されている。新たに、本属の1種を日本の蘚類フロラに追加し、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・*Schlotheimia* (モミゴケ属) は、日本から1種が報告されている。新たに、本属の1種を日本の蘚類フロラに追加し、*Hattoria* No. 6 に英文で発表する予定である。

・Symphyodon (ウニゴケ属) は、日本から 1 種が報告されている。新たに、本属の 1 種を日本の蘚類フロラに追加し、Hattoria No. 6 に英文で発表する予定である。

## 2). 苔類の分類分布について

- ・南米産のケビラゴケ科の Sect. *Dichotomae* 研究をおこなった。(継続中)
- ・日本産 *Radula Javanica* Gottche (シゲリケビラゴケ) の研究を完了した。
- ・日本産 *Calypogeia neesia* (タカネツキヌキゴケ) 群の研究を完了した。

## 3). 地衣類の分類・分布について

日本産地衣類のうち、これまで研究が不十分であった群を選び、分類・分布・化学成分について研究を行った。

・日本産地衣類の化学成分を高速液体クロマトグラフィー (HPLC) によって検討した結果について、出版の準備を進めた。(吉村)

・日本産ゴンゲンゴケ属の和名について整理した。(吉村・原田)

・日本産岩上生および樹皮着生マルゴケ属 *Porina* の分類学的検討を行い、論文を投稿した。(原田)

・日本産岩上生マンジュウゴケ属 *Strigula* の分類学的検討を行い、論文を投稿した。(原田)

・日本産淡水生被果地衣類を網羅する検索表を作成し、論文を投稿した。(原田)

・日本産の淡水生地衣類として、日本新産のアオキノリ属の一種 *Leptogium rivale* の詳細を報告した(論文受理)。(原田)

・日本新産属となる *Thelocarpon epibolum* を報告した(論文受理)。(原田)

・鹿児島県産の標本に基づき、コザラゴケ *Gyalidea* の新種を認め、論文を投稿した。(原田)

・鹿児島県産の 5 1 種の地衣類について、県内の分布情報に関する新知見をまとめ、論文を投稿した。(原田)

・千葉県立中央博物館の共同研究者とともに千葉県を中心とする主に日本産地衣類の化学分類学的検討を行っている。26 年度は、数十年前に収集され東京大学千葉演習林に保管されている清澄山産の標本を検討し、千葉県レッドデータブックで絶滅とされた種、あるいは未記録の 2 種(絶滅あるいはもっとも絶滅の危機に瀕していると評価すべき)を認めた(論文受理)。また、清澄山等にて収集したウメノキゴケ科ゴンゲンゴケ属の 1 種について化学分類学的検討を行い、これまで日本では実体がよく判っていなかった *Hypotrachyna adducta* であると結論付けた(論文受理)。更に、これまで国内から記録が無かった被果地衣の一種について、形態と化学成分の詳細をまとめ、論文を投稿した。(原田)

・中国科学院昆明植物研究所の共同研究者とともに、中国(主に雲南省)産の地衣類に関する多様性解明、分類学的研究を進めた。26 年度は、中国新産のエントツゴケ属(*Pyrgillus*) 2 種を報告し(論文受理)、中国新産属のシズミゴケ属(*Collemopsisidium*) の一種等について分類学的検討を行った。

・千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会、ならびに栃木県版レッドリスト改訂専門委員会に協力し、地衣類を担当した。(原田)

・高速液体クロマトグラフィー (HPLC) に質量分析機 (MS) を組み合わせた、新たな地衣成分同定手法の開発を行った。(原)

・日本産樹皮着生広義スミイボゴケ属 (*Buellia* s. l.) 地衣類の分類学的研究を進め、国際学会・シンポジウム、国内学会等で発表した。(原)

・上記のうち、*Buellia lauricassiae* の分類学的位置づけに関する論文を投稿した。(原)

・宮崎県の地衣類調査を継続して行い、綾町での調査を行った。(原)

・宮崎県日南海岸の地衣類について、県内の分布情報に関する新知見をまとめ、宮崎県総合博物館研究紀要として報告した。(原)

・秋田県秋田市小泉瀉公園の地衣類について、県内の分布情報に関する新知見をまとめ、秋田県立博物館研究報告として報告した。(原)

・陸前高田市立博物館収蔵の鳥羽源蔵が採集した地衣類標本について再調査を行い、論文として発表した。(原)

#### 4) ・自然環境と蘚苔類について

日本の分布上興味深い種が集中する地域の蘚苔植物について本年度は福岡県英彦山の蘚類について調査・研究を行った。現在、調査・研究を継続しており、その成果は *Hattoria* No. 7 で報告する予定である。

#### 1. 1. 2 蘚苔・地衣植物のデータベース作成

1). 服部植物研究所蔵の蘚苔植物の基準標本のうち、外国産蘚類のリスト作成については、現在継続中である。

2). 日本産地衣類のチェックリスト (2004 発行) の補遺の作成を進めた。(継続中)

3). 日本産地衣類のチェックリストに準拠した、日本産地衣類目録の作成を進めた。(継続中)

#### 1. 1. 3 研究資料の収集・整理および普及活動

1). 現地調査及び交換により、内外の蘚苔・地衣植物の資料を収集した。

・現地調査及び交換により、内外の蘚苔植物の標本191点 (日本産69点、外国産122点) を収集整理した。

・購入・交換により内外の蘚苔・地衣植物関係の文献114点 (購入33点、交換81点) を入手し、整理した。

2). 蘚苔・地衣植物関係の資料 (標本、図書、別刷り、など) の整理を続けた。

①本年度収集された標本の仕分け作業。

・本年度収集分の122点の標本の仕分けを行った。

②本年度までに返却・寄贈された未仕分け標本の仕分け作業。

・未仕分け標本の仕分けを行った。(継続中)

- ③外国産蘚類標本棚の整理。
  - ・外国産蘚類標本の整理を行った（継続中）。
- ④外国の蘚苔類古書文献のデータベース化。
  - ・外国の蘚苔類古書文献の図版のデジタル化を行った。（継続中）
- ⑤研究論文原稿蔵書の整理。
  - ・研究論文原稿蔵書の整理を行った。（継続中）
- ⑥地衣類標本の整理、収集。
  - ・当研究所が所蔵する地衣類未同定標本の同定と整理を行った。（継続中）
  - ・高知分室管理の標本を同定・整理し、十文字資料室へ移動した。（継続中）
- 3). 内外の研究者の要請に応じ、標本の貸し出し、文献の複写などのサービスを行った。
  - ・23件782点（国内12件399点、国外11件383点）の標本貸し出しを行った。
- 4). 内外の研究者及同好者の要請に応じ、蘚苔・地衣植物資料の学名同定を行った。
  - ・研究者、同好者の要請に応じ学名同定を行った。
- 5). 自然保護、及び蘚苔・地衣植物学に関する情報を広く一般に知ってもらうため、自然観察会、講演会その他の普及活動を行った。
  - ・平成26年6月4日（水）ワークショップ「コケ玉づくり」を南那珂森林組合のアンテナショップ・オビダラリーとの共催で行った。（会場：オビダラリー 講師：服部植物研究所研究補助員 参加者：20名）
  - ・平成26年7月28日（月）に日南市観光協会主催のワークショップ「にちなん幸開き テラリウム・小さなコケの世界を作ってみませんか」を開催した。（会場：服部植物研究所展示場 講師：服部植物研究所研究補助員 参加者：22名）
  - ・平成26年7月12日（土）コケの座談会に講師として出席した。熊野古道センター主催「山田耕作先生を囲んで」35名参加。（山田）
  - ・平成26年10月18日（土）コケの観察会「熊野古道の植物を学ぶ 第3回 コケ植物編」熊野古道センター主催に講師として出席した。18名参加。（山田）
  - ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定された2つの高校（三重県，福島県）の地衣類に関する研究テーマにおいて、それぞれの地域の地衣類の分類・同定の助言・分析を行った。（原）
  - ・より多くの方に情報を発信するためにホームページを一新する作業を行った。平成26年4月1日から新ホームページに移行した。年間8,315回のアクセスがあり、そのユーザー数は6,192人、新規セッション率は74.37%であった。
- 6). 蘚苔・地衣植物学と故服部博士と服部植物研究所に関する情報を広く一般に知ってもらうために常設展示場を設け、所蔵資料や研究成果等の展示を行った。
  - ・年間入場者数は2,246名（男性：909名 女性：1,337名）であった。
- 7). 展示場においてのコケに関する書籍、物品の販売。
  - ・年間を通して蘚苔・地衣類に関する書籍、物品の販売を行った。

#### 1. 1.4 研究成果の出版と販売

- 1). Hattoria No. 5 を平成 26 年 7 月 10 日に出版した。内容は論文 8 篇（全て英文）の全 113 ページであった。
- 2). 服部植物研究所報告の希少バックナンバー (No.28~33) のオンデマンド印刷を行った。

#### 2. その他の事業

##### 2.1 収益事業

###### 2.1.1 土地の賃貸による収益事業をおこなった。

- 1). 基本財産である宮崎県延岡市川島町の宅地をローソンに賃貸した。
- 2). 基本財産である宮崎県日南市飫肥6丁目の宅地を駐車場(6台/月)として賃貸した。

###### 2.1.2 山林事業をおこなった。

- 1). 一般財産である、日南市大字酒谷字小布施国有部分林新設定第3区の一部2.02ha を、売却した。

#### 3. 財団運営

##### 3.1 理事会の開催

- ・平成26年6月7日（土）

議題 平成25年度事業報告書、収支決算書及び財産目録の承認の件

- ・平成 27 年 3 月 14 日（土）

議題 平成 27 年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件

##### 3.2 評議員会の開催

- ・平成26年6月7日（土）

議題 平成25年度事業報告書、収支決算書及び財産目録の承認の件

- ・平成 27 年 3 月 14 日（土）

議題 平成 27 年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件